

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	地方当局や村落共同体、保護者や現地 NGO との連携を通じて、乳幼児期にある子どもたちの認知的、情緒的、社会的、身体的能力の発達を促すケア (ECCD) 体制を構築・強化する。
(2) 事業内容	<p>活動 0：事業開始準備</p> <p>0.1 対象村落の選定 (12 月)</p> <p>帰還・再定住から間もない村落を優先するとともに、子どもたちの状態、貧困や生計手段の多寡について県知事事務所や郡事務所と協議し、弊会スタッフによって現地調査を実施した上で対象村落を選定した。</p> <p>0.2 地方政府からの許可取得 (12 月)</p> <p>12 月 21 日に弊会事業統括、東部州マネージャー、プロジェクト・コーディネーターがトリンコマレ県知事を訪問。当事業について説明を行うとともに、事業実施の承認を得た。また東部州早期幼児教育局をあわせて訪問し、今後の事業実施についての打ち合わせを行った。</p> <p>0.3 ECCD 運営委員会の設立 (1 月)</p> <p>第 1 期・第 2 期で設立済みの 29 村に加え、今期では 6 村において委員会を立ち上げた。まず当事業の説明会を事業地のある 6 郡において、郡長 (DS)、区長 (GN)、村のリーダー、ECCD 教員らを招いて開催。各村落において保護者向けに説明会を実施した。ECCD 運営委員会理事会¹メンバーは、その後各村落で開かれた会合において出席した村のリーダー、ECCD 教員、保護者などの中から、話し合いによって決定した。</p> <p>0.4 現地パートナー NGO との覚書締結 (12 月)</p> <p>県知事から当事業に関する実施許可を得たことを受け、現地パートナー NGO の AHAM、TDDA、スランガニ基金と事業協力の覚書を締結した。この AHAM/TDDA の 2 団体は、対象地域における活動歴が長く、JPF 事業を含め関連分野での経験もあり、広範なネットワークで地域密着型の活動を展開している。またスランガニ基金は前期事業でも協同した実績があり、今期は特別研修の実施で協同する。</p> <p>活動 1：ECCD 環境設備</p> <p>1.1 ECCD センター整備</p> <p>新設予定の 8 ヶ所のうち、現在、6 ヶ所 (Athapanthiwewa、Samanpura、Arafanager、Navaladi、Thaqwanager、Parathipuram) の建設工事が順調に進んでいる。残り 2 か所については、Sampulaki 村で土地使用許可の承認が 5 月最終週に認められたため、速やかに建設工事を開始する。残る Vaddavan 村においても、建設候補地選定の最終段階に入っているが、当初予定していた土地での土地使用許可に折り合いがつかず、代替地</p>

¹ ECCD 運営委員会は保護者全員をメンバーとしている一方、運営委員会をまとめる理事会メンバーは村内会合により選出されるという仕組みになっている。

での建設の可能性が濃厚になっている。その際は、代替地内に井戸の設備がないため、井戸の新設が必要となってくる。6月第1週までに現在の予算執行状況を確認し、最終的な判断をする予定である。Vaddavan村でも6月下旬までには建設を開始できる見込みであり、いずれのセンターも、計画通り9月末までに全て完成する予定である。

1.2 園庭の整備

10センターを対象としたフェンス設置は、現在までに1センター(Jayanthiya)で工事が開始された。残り9センターにおいては、資機材の調達が済み、輸送待ちの状況である。全てのフェンスが計画通り9月末までに完成する予定。1期及び2期同様、フェンスは子どもたちの安全に配慮したネットフェンスを選び、家畜など外部の強い力で倒れないよう土台をコンクリートで固める。

園庭整備に関しては、フェンス設置対象の10か所を含む計35ヶ所において、保護者によるニーズ調査が完了した。今後、コミュニティと話し合いが行われ、6月中に具体的な整備を開始する予定である。

1.3 遊具・教材の提供

屋外及び屋内用遊具、図書セット、家具・備品などを対象のECCDセンターに提供するため、各見積もりを取得した。実際の購入手続きは、計画通り6月以降に実施予定。

活動2：ECCD維持管理体制の体制的・質的強化

本コンポーネント実施にあたり、弊会、スランガニ基金、パートナー団体が支援対象村を回り、教員に対する研修の紹介及びニーズ調査を実施し、事業終了時までの計画を策定した(2月)。

2.1 教員研修の実施(フォローアッププログラム)

上記計画に基づき、フォローアッププログラムをシンハラ地域教員とタミル・ムスリム地域教員を対象に、4月に実施した。プログラムの実施にあたっては、2月にオリエンテーションセッションを実施し、本事業の趣旨を再確認するとともに、ECCD教員の役割の再確認を行った。

2.2 教員の相互交流プログラムの実施

タミル・ムスリム地域では先述のオリエンテーションセッション時に教員のグループ分けを行い、特別教員研修の課題に共同で取り組んでいる。またシンハラ地域においては、教員が所属する自衛部隊のシステムを通じて定期的に情報共有を行っている。

2.3.特別教員研修の実施

3月に第1回セッション、5月に第2回セッションが実施され、「子どもの心理」「芸術と工作」「救急措置」「環境問題」などといった教員資格必要に必要なテーマの講義と実践が行われた。各セッション後には課題が提示され、先述の教員間のグループで、トリンコマレ県に戻

ったのちも定期的に集まって、次回セッションに向け、課題で出された内容に取り組んでいる。また、研修では毎回、指や手、体全体を使った様々な種類の歌やダンスが紹介されており、教員たちは研修中に覚えたものをそれぞれのセンターに持ち帰り、生徒たちに教えている。

2.4 東部州早期幼児教育局に対する能力強化研修の実施

東部早期幼児教育局長が異動となったため、新局長が着任する6月上旬に、今後の研修内容について協議を持つ予定。先述のフォローアップ研修・特別教員研修には、同局のトリンコマレ県担当官も出席し、弊会の活動内容についての理解を深めている。

活動3：村落共同体と ECCD 運営委員会の連携促進

3.1 ECCD 運営委員会に対する研修

新たに結成した運営委員会の定款の郡事務所による承認に時間がかかったため、研修の時期を後ろ倒しして6月に実施する。その準備のため、弊会コロンボ事務所の教育アドバイザーとトリンコマレ事務所の間で、5月4週目に具体的な方針・研修内容を話し合う初回ミーティングを実施した。すべての委員会に対するフォローアップ研修は、計画通り7月に実施する予定。

3.2 所得創出活動（IGA）のフォローアップを通じた成果と学びの共有

第2期で開始した2村におけるIGA（Puliyadicholai：養鶏、Palathadichenai：製粉）のフォローアップに加え、Poonagarでも郡事務所より活動開始の承認が下り、現在、土地整備、養鶏小屋建設準備、ブロイラー調達準備が進められている。

Puliyadicholai 村では活動開始から現在まで平均して175羽～190羽のブロイラーが飼育されている。活動開始から12年4月末までの総収入は200,075ルピー、総支出は195,782ルピーで、ランニングコストでは26,991ルピーの黒字が出ているほか、74,431ルピーの貯蓄がある。

Palathadichenai 村では、12年4月末までに908kgの米粉を製粉し、706kgを販売した。しかしながら、同製粉所で作られる米粉の販売価格は大手工場のマス・プロダクト製品より高いため、Palathadichenai 村の消費者は、同村内で販売されるIGAによる製品を購入するより、多少遠方の市場に出向いてでもより安い商品を購入する傾向が強くみられた²。したがって、販売価格よりも生産コストの方が上回り、採算が取れなくなったため、これ以上の損失を避けるため、4月末日より製粉を一時休止している。この事態を受け、5月末に弊会、コミュニティ、パートナー団体との間で対策を協議し、よりコストのかからない方法として、米粉を、パッケージングを施した製品として販売するのではなく、製粉を希望する消費者に原材料のコメを持ち寄ってもらい、手数料を取って、製粉のみを行い、消費者に手渡すという手段が提案された。6月初旬までにこの方式による新たなプランを、コミュニティ・パートナー団体が弊会に提出し、弊会が精査したうえで、活動を再開す

² 同村でIGAを開始するにあたり、同村内のマーケティング調査を行ったが、その時点では、そうした傾向は読み取れなかった。

	<p>る予定。また活動再開にあたっては IGA 委員会メンバーの入れ替えを行う。</p> <p>3.3 家庭訪問型 ECCD ネットワークと連携した菜園の実施 (24 村)</p> <p>第 1 期及び第 2 期から引き続き、家庭訪問型 ECCD を実施している。女性ボランティア 5 名が、対象村落内の乳幼児を持つ家庭を戸別訪問し、栄養や衛生に関する指導を母親に対して行っている。女性ボランティアは、訪問内容を記録し、その内容を 2 ヶ月に一回の頻度でプロジェクト・オフィサーに報告している。多くの母親が定期的に助産師を訪問したり、母乳を中心とした栄養素を与えるなど、行動の改善が顕著にみられているが、所得の低い家庭ほど、ボランティアのアドバイスを聞き入れないケースが報告されている。今後はこうした低所得家庭にフォーカスをあて、戸別訪問を実施していく予定である。</p> <p>ECCD センターに作られる菜園に関しては、計 19 センターのうち、現在までに 12 村のセンターで現地パートナー団体と ECCD ネットワーク（教員、保護者等によって構成）との下、ニーズ調査及び実施に向けた話し合いが行われた。うち、2 村において、種子・苗木の種類の決定及び土地整備・マッピングが完了している。残りの村々においても、土地の選定及び土地の使用許可取得が完了次第、具体的な活動内容が決定されていく見込みである。</p> <p>また、5 村における 2 エーカーの菜園作りは、土地の選定が完了し、現在、現地政府への土地使用承認申請中である。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>成果目標 1. 事業対象地域における ECCD 環境整備：40%達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の出席率については完了報告で記載予定。建設作業は、建設が開始された 6 村において全行程の 4 割ほどが完了。 <p>【住民の声】</p> <p>① 「この村にはセンターがないので、子どもたちの多くが幼稚園に行かず家にいます。私は自分の子どもを隣村のセンターに通わせていますが、とても狭い教室の中で 40 人以上の生徒が学んでいるので、良い教育環境とは言えませんね。この村にセンターができるのがとても楽しみです。きっと近所の子どもたちも皆センターに行くようになるでしょう。教育は子どもたちの将来にとってとても大切ですからね。」(Thaqwanagar 村の母親)</p> <p>成果目標 2. 研修を受けた ECCD 教員が、研修で得た知識・経験を生かし、継続して質の高い ECCD 教育を実践する：約 53%達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別教員研修の全カリキュラムの 53%が完了済み (13 教程のうち 7 教程が完了)。35 村全ての ECCD センターより、少なくとも 1 名の教師が何かしらの研修に出席しており、全てのセンターで研修効果が発揮されている。 <p>【教員の声】</p> <p>① 研修で学ぶことは、本当に役立つことばかりです。『手洗い』につ</p>

	<p>いての研修では、手洗いの際にはバケツを3つ用意すると良いと学びました。1つ目のバケツで石鹼を落とす、2つ目のバケツで手に残った石鹼をさらに落とす、3つ目のバケツでもう1回手を洗うことで、とっても清潔になるんです。(Jayanthiya 村 ECCD センター教員)</p> <p>② 『工作』の研修で、のりを使うクラスでは、少量の水とハンカチを入れたボールを用意すると良いと言われました。以前は、のりを触る度に子どもたちは園庭まで手を洗いに行っていました。手にのりがついたまましていると、せっかくの工作が汚れてしまうからです。でも、このボールを用意しておくと、机に座って、このハンカチで手を拭くだけで手ののりを落とせます。水も時間も節約できて、とても効率的です。本当に助かっています。</p> <p>(Lassanagama 村 ECCD センター教員)</p> <p>成果目標 3. ECCD 運営委員会がコミュニティの協力を得ながら、栄養補助食を提供できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IGA パイロット各村の平均収入、およびそのうち ECCD センターの栄養補助食に充填された平均額：Puliyadhicholai 村の現時点での収入は 26,991 ルピー。それに加えて 74,432 ルピーの貯蓄がある。Palathanichenai および Poonagar 村については完了報告書の記載予定。 • モデル菜園の収穫物を利用して栄養補助食の提供を行った ECCD センターの割合：完了報告書に記載予定。 • IGA・モデル菜園の成功事例を取り入れて、新たに所得創出活動を開始した ECCD 運営委員会の割合：完了報告書に記載予定。
(4) 今後の見通し	<p>ほぼすべての活動が、おおむね計画通りに進捗している。</p> <p>ECCD 運営委員会研修と東部州教育局の研修で遅れが出ているが、5月最終週から6月上旬に、活動を具体化させるためのミーティングが予定されており、事業期間終了までには実施が完了する見込みである。</p> <p>ただし IGA に関しては、活動そのものは実施されているものの、本来の目的である、教員の給与確保と栄養補助食提供の財源確保という点については、IGA 委員会の財務管理の一層のテコ入れが必要である。</p> <p>Puliyadhicholai 村では 74,432 ルピー、Palathanichenai 村では 12,820 ルピー (Poonagar 村は事業完了時までには明らかになる予定) の貯蓄があるが、これをどのように上記の目的に振り分け、来年度以降の活動費に回していくか。こういったプランニングと予算化といった作業を、IGA 委員会自身が行わなければならない。活動開始時も予算管理や計画策定の研修を実施しているが、実際の経験に基づいたフォローアップ研修の実施を、弊社トリニコ事務所会計担当を講師として企画中である。</p>